

第9代会長ご挨拶

本会は、1958年に創立され、2018年に還暦を迎えました。発足当初に比べて女性研究者を取り巻く環境は格段に改善されましたが、まだまだ十分ではありません。2003年6月、内閣府・男女共同参画推進本部が決定した「社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的位置に女性が占める割合を少なくとも30%程度とする目標＝202030」を掲げ、2014年6月に閣議決定された科学技術イノベーション総合戦略2014では、「大学及び公的研究機関における女性研究者の採用割合を自然科学系全体で2016年までに30%に」と明記されました。本来は機会均等により50%を目指すべきであるが、本邦における研究者に占める女性の割合は現在約15%で、開発途上国を含めた全世界の中でも最下位に近く、この十年でわずか3%の増加に留まっています。少子化が進む中で、自然資源の乏しい我が国で技術立国として世界をリードし続けるためには、女性研究者の活躍が益々重要になり、女性研究者の育成は喫緊の課題です。上記目標を達成するための抜本的な対策が求められる中、女性研究者を取り巻く環境（意識・制度）の改善や機会均等のための対策は遅々として進んでいません。そのような中、本会は全国規模で女性研究者のための支援を続けてきました。

本会会員は、全国の大学、研究機関、企業の研究者で構成されており、女性研究者のプロモーションや環境改善のための支援活動・リケジョ育成活動を行っています。少数である女性研究者間のネットワークを構築することにより、女性研究者が直面する問題が見える化し、改善につなげるという地道な活動も続けてきました。より多くの女性研究者が本会に所属することで、ネットワークの充実と問題点の共有により「環境改善への提言」に繋げることができます。本会の特徴として、退職された方でも本会の趣旨に賛同して下さる女性研究者が、会員として活動を支えて下さっていることが挙げられます。サイエンスコミュニケーターとして地域のサイエンス学習に貢献されておられる方もおられます。ぜひ入会して、一緒に活動を支えて頂けます様お願い致します。

本会の運営は会員の年会費で賄われており、基盤的活動（学術誌やNewsの出版、HP、学術活動）は、会員が忙しい日々のなか、勤務の合間に時間や労力を割いてボランティアで活動を支えています。運営に対する寄付や広告によるご支援により、活動内容を充実させることができます。また、イベントごとに趣意書を作成しておりますので、趣意に賛同されましたら、各イベントへのご支援もお願い致します。

1996年から始まった「日本女性科学者の会奨励賞」は、女性研究者のプロモーション支援として、受賞した研究者の地位向上に大きく貢献しています(<http://www.sjws.info/pict/sjwspromo.pdf>)。この賞は、科学教育者守田純子氏の御遺志による寄付を基金として設立され、今年で25回を迎えましたが基金は底が見え始めております。奨励賞継続のために、奨励賞基金へのご寄付をお願い致します。

本会は、全国ネットで女性研究者を繋ぐ唯一の会であり、我々の活動は、現在の女性研究者の支援と未来の女性研究者の育成が必要だという会員の思いで支えられています。我々の活動にご理解を頂き、我々の活動継続のために、ぜひご寄付と賛助会員への登録をご検討頂けます様お願い申し上げます。



第9代会長 近藤科江
東京工業大学 生命理工学院 教授